重要自然マップ

三陸南部

※2012年段階の情報を元に作成しています。

凡例

- 津波浸水域（拡大図では白枠）
- 重点エリア拡大図範囲

■海域

①藻場
- 第5回基礎調査
- モニタリングサイト1000
- 生態系監視調査

②アマモ場
- 第5回基礎調査
- モニタリングサイト1000
- 生態系監視調査

③干潟
- 第5回基礎調査
- モニタリングサイト1000
- 生態系監視調査
- 有識者による情報

■陸域

④砂丘
- 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂丘植生）

⑤海岸断崖地の自然植生
- 海岸断崖地の自然植生

⑥残存樹林地
- 残存樹林地

⑦樹林跡地（モザイク状の多様な撹乱環境）
- 樹林跡地（モザイク状の多様な撹乱環境）

⑧湿地植生
- 湿地植生（震災前後変化なし）
- 湿地植生（震災後新たに出現）

⑨草原（二次草原）
- 草原（二次草原）

⑩非耕作農地（水田雑草群落）
- 非耕作農地（水田雑草群落）
- 非耕作農地（水田雑草群落）旧版地図（湿地・河川・湖沼）

⑪河川・湖沼等開放水域
- 河川・湖沼
- 新たな開放水域、河川・湖沼以外の開放水域

■その他重要な自然を補足する情報
- レッドリスト掲載種の生育地（植物）※それぞれの種名については非公開としています
- 特定植物群落（第5回基礎調査）※津波浸水域周囲のみ
- 日本の白砂青松百選
- 日本の渚百選
- 日本の音風景百選
- 日本のかおり風景百選
- 日本の快水浴場百選
- 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選
- ガンカモ類調査（モニタリングサイト1000、ガンカモ類の生息調査）
- シギ・チドリ類調査（モニタリングサイト1000）
- 海鳥調査（モニタリングサイト1000、生態系監視調査）
- 社寺位置

■法規制
- 国立公園
- 国定公園
- 国指定鳥獣保護区
- 国指定鳥獣保護区（特別保護地区）
- 県指定鳥獣保護区
- 区画漁業権
- 共同漁業権

(11) 志津川湾

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年6月7日）

- 小規模な非耕作農地のまとまり。
- 細浦
- 2012年モニタリングサイト1000（藻場）
  アラメ主体の群落で、寒海性と暖海性コンブ目が共存する海域の代表的な藻場の一つ。2012年は一部で著しいワカメの繁茂、ウルシグサ等の出現、アラメ幼体の出現頻度の高さが特徴。（志津川湾）
- 藻場、砂浜、残存樹林地のつながり。
- ・荒島のタブノキ林（特定植物群落）
- 断崖地、広葉樹自然林のつながり。
- 湾内の干潟は震災により打撃を受けたが、2012年以降、アサリが再び確認される等、底生動物が増加している。
- ・椿島のヤブツバキ林（特定植物群落）
- 断崖地、岩礁、藻場のまとまり。
- ・折立川（おりたてがわ）海から陸へのつながり。（アマモ場、干潟、新たな水面、非耕作農地、残存樹林地）
- ・水戸部川（みとべがわ）藻場、アマモ場、湿地植生、非耕作農地のつながり。
- アマモ場 震災後縮小した後、その後、増加傾向。コクガンも飛来。
- ・神割崎（かみわりさき）日本の白砂青松百選
- ・神割崎のクロマツ林（特定植物群落）

1:50,000 0 1 2 km

(10) 本吉湾奥部

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年5月19日、2011年6月21日）

- 湿地植生（ヨシ、ツルヨシ群落のまとまり）
- 砂丘植生とその生育基盤である砂浜のまとまり。（砂浜性昆虫類の生育基盤、シギ・チドリ等鳥類の生息の場）
- 非耕作農地のまとまり。（トンボ類やシギ類、チドリ類の利用）
- ・津谷川（つやがわ）河口域 砂浜、新たな水面、森林・残存樹林地のまとまり。河口部のかつての砂浜、海岸防災林は流出したが、新たな砂浜、新たな水面、新たな干潟が形成された。右岸の新たな干潟にはアサリをはじめとする各種底生動物の生息が確認されている。

1:25,000 0 0.5 1 km

(12) 北上川河口域

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年6月6日）

1:25,000 0 0.5 1 km

- ・北上川とその支川 ニホンウナギ、モクズガニ等回遊性生物の生息。ヒヌマイトトンボ等の希少な種の生息。
- 湿地植生（現存するヨシ原）オオヨシキリの繁殖地、オオセッカの生息場。イトメやアリアケモドキを豊富に産する、貧鹹水性の生態系。北上川のヨシ原 残したい日本の音風景百選
- ・長面浜の砂丘植生（特定植物群落）
- 新たな、水面、干潟、湿地植生、非耕作農地による広大な湿性環境。（サギ、ガン、カモ類の利用）
- 100年前は、湿地であった広大な非耕作農地のまとまり。
- 砂浜の消失
- 湿地植生 比較的高塩分なヨシ原は、震災影響を大きく受けたが、植生が戻りつつある。
- シジミ漁場
- 非耕作農地（水田雑草群落）に新たな水面が多数出現。低塩分な水域では、ミスアオイ、リュウノヒゲモ等の希少な植物が多く生育。
- 2012年生態系監視調査（干潟）32種（希少な種1種を含む）の底生動物を確認。震災で外海の影響をうけたとみられる状況があった。二枚貝類の回復も比較的順調（長面浦）
- ・長面浦（なかつらうら）藻場、干潟が分布する汽水域。
- 2012年生態系監視調査（干潟）22種（希少な種3種を含む）の底生動物を確認。ヤマトシジミ、アリアケモドキは減少したが貧鹹水を特徴づける主な種は確認。（北上川河口）
- ・追波川の河辺植生（特定植物群落）
- 100年前は、湿地であった広大な非耕作農地のまとまり。
- ・富士沼 希少な種を含む湿地植生の生育、トンボ類等の利用

(5) 山田湾奥部

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年6月20日）

- ・閖口川（せきぐちがわ）希少なハゼ類や回遊魚類の生息。アサリやアシハラガニ等の生息。河川と非耕作農地、残存樹林地のまとまり。
- 2012年生態系監視調査（干潟）織笠川では41種（希少な種2種を含む）を確認。2013年にはアサリ、ホソウミニナ等、震災前に生息していた種が回復。（織笠川河口）
- 2012年生態系監視調査（アマモ場）スゲアマモとアマモの成育を確認。湾北部と湾央部では、震災前後で変化なく密生していたが、湾奥部の織笠川河口沖では、分布域、密度ともに減少していた。（山田湾）
- ・織笠川（おりかさがわ）アマモ場、アサリが生息する干潟と河川のつながり。希少なハゼ類やサケ、サクラマス、アユ等の回遊性魚類の生息。河川を中心に周辺に広がる湿地植生、非耕作農地（湿地環境）のまとまり。（トンボ類、サギ類の生息場）
- ・大島（おおしま）、小島（こじま）北限の常緑広葉樹林が残存。
- 干潟、アマモ場、藻場等のつながり。
- ・浦の浜（うらのはま）点在する残存樹林地と非耕作農地のつながり。

1:25,000 0 0.5 1 km

(6) 船越湾奥部

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年6月20日）

周辺には以下の注目すべき場がある。

(6)a 荒神（あらがみ）、弁天島（べんてんじま）
砂浜と岩浜が隣接する貴重な場。マガキ、テングヨコエビ等が生息。

(6)b 小谷鳥（こやどり）
淡水が集まる豊かな湿地。

(6)c 前須賀（まえすか）
まとまった砂浜に希少な植物、昆虫が生息。

- ・四十八坂海岸（しじゅうやさかかいがん）断崖地、岩礁と藻場のつながり。
- ・浪板海岸（なみいたかいがん）吉里吉里海岸（きりきりかいがん）アマモ、スゲアマモ、タチアマモの群落が大打撃を受けたが回復する可能性がある。
- 2012年モニタリングサイト1000（アマモ場）震災前に確認されていたアマモ植生はほとんどが消失。一部、回復が確認されたが、密度は震災前より著しく低かった。（吉里吉里）
- 浪板海岸
- 吉里吉里海岸
- 残存する砂浜と非耕作農地（湿地環境）のまとまり（シギ・チドリ類、トンボ類の生息場）
- 断崖地、岩礁、島と藻場のつながり。

1:25,000 0 0.5 1 km

(7) 大槌湾奥部

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年3月19日、2011年6月20日）

周辺には以下の注目すべき場がある。

北側にある大槌川、小槌川にはサケ、サクラマス等が生息。海域にはアマモが生育する。

- 2012年生態系監視調査（干潟）鵜住居川では28種（希少な種1種を含む）を確認。環境は調査場所を大きく変えざるを得ない程変化したが、新しい環境で底生動物相の回復傾向を確認。（鵜住居川）
- 残存するまとまった砂浜。（砂丘植生、砂浜性昆虫類の生息の場）
- 河口の北側に残った砂浜海岸。（砂浜性昆虫類の生息の場）
- ・根浜海岸（ねはまかいがん）長く延びた特徴ある砂嘴地形は消失。
- 被災した海岸防災林と非耕作農地のまとまり。
- ・鵜住居川（うのすまいかわ）河口部は大きく変化したが、河川の連続性が保たれている。（ニホンウナギ等回遊性魚類の生息）新しい河口部のやや上流にはヨシ原が発達しつつある。周囲の泥干潟にはヤマトシジミが比較的多い。河川を中心に周辺に広がる湿地植生、非耕作農地等、湿性環境のつながり。
- 2012年モニタリングサイト1000（アマモ場）震災前に確認されていたアマモ植生はほとんどが消失。一部実生などが確認されたが、著しい植生の回復はみられなかった。（根浜）
- 非耕作農地のまとまり。（トンボ類、シギ・チドリ類の利用）

1:25,000 0 0.5 1 km

(8) 広田湾奥部

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年6月19日、2011年5月26日）

2012年生態系監視調査（アマモ場）震災前と同様にアマモ、タチアマモの2種の生育を確認。（広田湾）

- 非耕作農地のまとまり。（トンボ類、シギ・チドリ類の利用）
- まとまったアマモ場、藻場。（水域におけるネットワークの拠点、魚介類の産卵場、稚魚の育生場、コクガン等渡り鳥の採餌場、休息場）
- ・気仙川（けせんがわ）ニホンウナギ等の回遊性魚類の生息。
- 2013年生態系監視調査サイト（小友浦）
- ・高田松原（たかたまつばら）日本の白砂青松百選。東北の代表的景観が失われた。
- ・古川沼（ふるかわぬま）汽水域へ変化。水域へはコクガンが飛来。
- ・高田松原のクロマツ植栽林（特定植物群落）
- ・小友浦（おともうら）干潟にはアサリ稚貝をはじめ底生動物が多く再生しつつある。ミズアオイ、タコノアシ等、希少な植物が生育して湿地を形成。アマモ場、干潟、湿地のつながりができつつある。

1:50,000 0 1 2 km

(9) 気仙沼湾西部

※背景：国土地理院撮影空中写真（2011年5月19日、2011年5月26日）

- ・舞根湾（もうねわん）新たに形成された干潟、湿地植生、非耕作農地（水田雑草群落）のまとまり（アサリなど干潟を代表する生物の分布、希少な植物の生育、ニホンウナギ等回遊魚の生息）。
- ・九九鳴き浜（くくなきはま）鳴き砂の浜（残存）。スナガニの北限生息地。
- ・十八鳴浜（くぐなりはま）鳴き砂の浜（残存）日本の渚百選
- ・大島のアカガシ林（特定植物群落）
- ・大島十八鳴浜のアカマツ林（特定植物群落）
- 非耕作農地、砂浜、残存樹林地のまとまり。
- 田中浜
- ・田中浜（たなかはま）小田の浜（おだのはま）（日本の快水浴場百選）残存する砂浜・砂丘植生、後背の樹林、非耕作農地等の海から陸へのつながり。
- 小田の浜

1:25,000 0 0.5 1 km

位置図

NORTH

1:99,998 0 5 10 km

平成26年3月発行 環境省自然環境局生物多様性センター
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1 地勢図を複製したものである。（承認番号 平25情複、第1002号）」「この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を使用した。（承認番号 平26情使、第25号）」
生物多様性センター Biodiversity Center of Japan